セミの兄弟

高野敦志

目次

はしがき
セミの兄弟

はしがき

我が家の蜜柑（みかん）の木に、セミの抜け殻を見つけました。一つの葉に二匹止まったまま、羽化していたのです。眺めていると、一篇の詩が生まれました。そのさまを描いた絵を表紙にしました。

セミの兄弟

僕らは七年間
暗い穴蔵で暮らしてきた
父や母が誰だかも分からない
兄弟がいたというのも
先ほど知ったばかりだ
どんな姿をしているかというのも
お前の顔を見てはじめて知ったんだ
同じ木によじ登り
同じ葉っぱの上に乗ったとき
体の中から盛り上がる力を感じた

体がはじけそうになり
自分が死んでしまうと思ったとき
羽を持った新しい体が出てきた

僕らは十日ほどの短い青春を味わうんだ
彼女と巡り会えるか
鳥に食べられてしまうかも分からない
知り合ったお前とも
二度と出会うことはないだろう
残された時間に大空を飛び回り
けたたましい声で鳴き
若さを満喫して死ぬんだ

これほど潔い生き方があるだろうか